

I K A G O 通信

滋賀県湖北地域振興局木之本建設管理部
〒529-0426
滋賀県伊香郡木之本町黒田 1234
TEL 0749-82-3434 FAX 0749-82-2654
E-mail ha36@pref.shiga.jp
URL <http://www.pref.shiga.jp/h/ki-doboku/>

あけましておめでとうございます m(--)m

年が明けると、伊香を含む湖北地方では『おこない』と言う行事が各地で行われます。『おこない』って何？と言う方が多いのでは？『おこない』の原点は仏教の新年の祭礼からきているらしく、天下太平・五穀豊穰を祈願するといったものようです。地域によっては、当番に当たった家の主人は精進潔斎、厳しい村のおきてに従わなければならない所もあるようです。



厳冬の余呉町中河内

お知らせボックス

除雪についてお願い



道路計画課 維持補修担当 TEL (0749)-82-3889 (直通)
(0749)-82-3434 (代表)

受付時間 8:30~17:15(土・日・祝祭日を除く)

木之本建設管理部におきましては、降雪期には早朝から除雪作業を行い交通の確保に努めることになっていきます。除雪作業の効果を十分に発揮するために、次のことについて皆さまのご協力をお願いいたします。

- 1、道路に面している家の屋根雪おろし及び排雪は、円滑な交通を確保するため、各個人が行わず町内会や区で申し合わせて同じ日時にいき、必ず排雪して下さい。屋根からおろした雪を道路上に放置しておく、道路交通法違反になりますのでご注意ください。
- 2、消雪パイプが設置されている道路上には雪を捨てないで下さい。
- 3、自動車を道路上に放置すると除雪作業の妨げになりますので、放置しないようにして下さい。
- 4、歩道の除雪は、今冬も地元の皆さま方のご協力をお願いいたします。

雪崩(なだれ)

雪崩防災週間・12/1~12/7

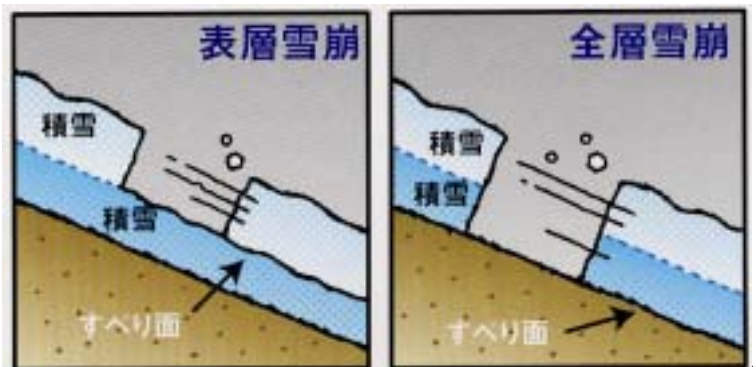


ーことばNOWー

国土の面積の半分以上(52%)が豪雪地帯に指定されているわが国にとって、毎年のように発生する雪崩災害は、生命と生活基盤を奪い去る重大な脅威となっています。

雪崩は、主に表層雪崩と全層雪崩に分類され、表層雪崩は雪崩面のすべり面が積雪内部にあり、気温が低く、降雪が続く時期に多く発生します。また、全層雪崩は雪崩面のすべり面が地表面にあり、春先の融雪時に多く発生します。雪崩の速度は、表層雪崩の場合はおおむね100~200km/hと新幹線並の速度。また、全層雪崩の場合40km~80km/hと自動車並の速度とされています。雪崩の衝撃力は100t(鉄筋コンクリート建物を倒壊する力に相当する力)に達する場合もあり、こうした雪崩が集落を襲うと被害甚大なものとなることは避けられません。(全国地すべりがけ崩れ対策協議会「雪崩災害から人の命を守る」から抜粋)

滋賀県にも雪崩危険箇所が299箇所あり、県では怖い雪崩災害から地域を守るため、雪崩対策事業による雪崩防止施設の建設とともに、広報活動等によるソフト対策を実施しています。毎年、防災意識の向上を図るため実施されている「雪崩防災シンポジウム」が、今冬は滋賀県余呉町の「はごろもホール」で開催されます。



第3回世界水フォーラムin滋賀プレイベント 平成14年度 雪崩防災シンポジウム

開催日:平成15年2月6日(木)/7日(金)

湖国の雪 くらしとまちづくり
会場: はごろもホール(余呉町中之郷)
主催: 国土交通省/滋賀県

お問い合わせ先: 滋賀県土木交通部砂防課
TEL: 077-528-4192

第4回 道路計画課 改良計画担当

各課紹介

道路計画課改良計画担当では、道路の拡幅事業やバイパス事業の計画・設計・工事施工の監營業務をおこなっています。これらの道路整備をおこなうことで、渋滞の緩和・通行の安全性（快適性）向上・移動時間の短縮などの効果があります。主な事業としては、国の補助事業により国道303号木之本町金居原地先および国道365号余呉町樺坂地先でバイパス整備事業をおこなっています。県の単独事業では、管内の道路のうち幅員の狭隘な区間などについて道路整備をおこなうことで、ドライバーのみならずの利便性と歩行者・自転車利用者の方の安全性の向上を図っています。



国道303号金居原バイパス



連絡先 道路計画課 TEL (0749)82-3888 (改良計画担当直通)

(0749)82-3434 (代表)

受付時間 8:30~17:15 (土・日・祝祭日を除く)

わかさぎ釣り

余呉湖のワカサギ釣り

今年も11月23日にワカサギ釣りが解禁になりました。土・日などは県内はもとより遠く県外(京都・岐阜等)からも大勢の太公望が訪れよく釣れています。ベテランになると500匹以上釣る人も・・・釣りはいたってシンプルで、初心者や女性、子供でもよく釣れるので、2回3回とリピーターも多く好評のようです。親子連れや、カップル、グループが多いのもワカサギ釣りならではの楽しみ。また釣ったワカサギをその場で天ぷらにして熱々を食べる、ウーまい！！日頃、家族サービスやコミュニケーション不足のあなた、是非一度お出かけになってはいかがでしょうか。防寒対策だけは充分にして下さい。



桟橋は大にぎわい

古道紀行

北国脇往還 - 美濃大返し -

(伊香郡高月町馬上~木之本町木之本)



馬上の町並み

北国脇往還(現国道365号)は、中山道(現国道21号)の関ヶ原から北国街道(現国道8号)の木之本を結ぶ、全長40km余りの短い街道ですが、古くから北陸と中部、関東の最短路として重視されてきました。

ヤマトタケル・源頼朝・織田信長・松尾芭蕉・越前や加賀のお殿様・・・そして名もない多くの旅人がこの街道を行き来しました。戦国時代には、天下の行方を左右した姉川の合戦や賤ヶ岳の合戦において、北国脇往還が重要な舞台となりました。特に有名なのが賤ヶ岳の合戦における「秀吉の美濃大返し」です。

天正十一年(1583年)春、織田信長の跡目を巡って覇権を争っていた羽柴(豊臣)秀吉と柴田勝家の最後の決戦が賤ヶ岳を中心に展開されました。

両軍(秀吉軍6万、勝家軍4万)の布陣は共に長期戦の構えで、1ヶ月近くこう着状態が続きました。4月20日、美濃攻めで賤ヶ岳が手薄と知った勝家軍の主力佐久間盛政隊8千が、単独で中央突破攻撃に出ました。その日、大垣で昼食中に盛政の賤ヶ岳出撃の報を聞いた秀吉は、「われ勝ったり」と叫び、先遣隊を出し北国脇往還沿いの村々に松明と握り飯の用意を命じました。午後4時までに本隊1万5千が大垣を出発、木之本までの13里(約52km)を5時間で移動しました。

移動中、高月町馬上(まけ)で休憩した秀吉が寺の住職に「ここは何村か?」と問いました。「マケ村」と言っただけで不吉であると思った住職が機転をきかし「北マケ村に御座います」と言うと、秀吉は「北負けとな」と言って大笑いし、陣営は大いに盛り上がったといわれています。

20日の午後9時に木之本に着陣した秀吉は、突出した盛政隊の退き際を討つべく、21日午前2時に総攻撃の命を出しました。熾烈な戦いの末、盛政隊がなんとか撤退に成功し、長期戦の陣形に戻れそうに思われた次の瞬間、後方押さえの前田利家親子2千が突然戦闘を放棄してしまいました。盛政隊にとっては致命的な後崩れの状態となり全軍大混乱、戦いは七本槍の活躍などもあり秀吉軍の一方的勝利に終わりました。秀吉が戦国時代の精算をして「日本の治まりはこの時に候」と言ったのは、この賤ヶ岳の合戦の後だといわれています。



「北国きのもと道」(馬上)

一足早く春の見どころを紹介します。

みちしるべ

余呉町交流促進センター
茶わん祭の館

滋賀県伊香郡余呉町上丹生3224番地

TEL: 0749-86-8022

開館時間: 9:30~16:30 (休館: 火曜日、年末、年始)

自動車: 木之本ICより国道365号福井方面へ10分
余呉町役場交差点右折3分

電車: JR木之本駅下車 バス洞寿院行き上丹生下車

余呉町・丹生神社の大祭「茶わん祭り」は、おおむね3~5年に一度5月3日に行われます。その昔、余呉町上丹生では良質の陶土が採掘できたそう(丹生という名には赤い土という意味があります)。名工・末遠春長は、優れた陶土と技を自分に授けてくださった神に感謝し、毎年欠かさずに新しい陶器を神社に奉納したといひます。これが「茶わん祭り」の由縁です。

丹生神社の摂社・八幡神社に渡御する3基の曳山(恵宝山、寿宝山、丹宝山)には、数千を超える陶器をつなぎ合わせた山車飾りを取り付けられ、その高さは約10メートルにもおよびます。山車づくりの技法は秘伝とされ、いまま選ばれた工匠のみに口伝されています。「茶わん祭り」の伝統美はこうして親から子、子から孫へと継承されてきたのです。稚児の舞、花笠踊り、神輿の渡御など、古式を守って執行されるこの祭りは、滋賀県の無形民俗文化財に指定されています。

余呉町交流促進センター「茶わん祭の館」では、余呉町の「すがた」、「まつり」、「くらし」のゾーンに分け、地域の伝統に守られた興味深い品々が展示、紹介されています。

奥琵琶湖パークウェイ

滋賀県伊香郡西浅井町

自動車: 国道8号塩津より国道303号今津方面へ1分左手
冬季は通行止めになりますのでご注意ください

滋賀県の北端に位置する奥琵琶湖一帯は、琵琶湖国定公園の中でも最も自然景観に優れ、しかも変化に富んだ地域としてその価値は非常に高いものがあります。

奥琵琶湖パークウェイは、観光資源の有効活用ならびに地域開発の促進を図るため、昭和46年(1971年)9月に有料道路として延長18.8kmの供用を開始しました。現在は、県道葛籠尾崎大浦線、葛籠尾崎塩津線として無料供用しており、手軽に利用出来る本格的ドライブコースとして人気を集めています。

琵琶湖の中でも最も自然景観の美しさに恵まれたところを走る奥琵琶湖パークウェイは、真っ青な湖面、遠くにかすむ竹生島、素朴な菅浦の漁村など、見所満載です。とりわけ奥琵琶湖パークウェイから海津大崎へと続く桜並木は、全国屈指のもので、春の花見シーズンには多くのドライバーが訪れます。



茶わん祭の館



茶わん祭の曳山



つづら尾展望台



桜の帯と菅浦

計画調整課

土木交通部かたつむり作戦

滋賀県土木交通部が実施する「土木交通部かたつむり作戦」は、大津土木事務所と各地域振興局がそれぞれの管内の実情に応じて、テーマ、巡視ルートを設定し、自転車や徒歩により利用者の立場に立って公共土木施設の巡視、点検を行うものです。木之本建設管理部では、平成14年9月20日（金）に道路、9月30日（月）に河川（高時川）において実施しました。

毎年、観光や環境関係者など県民との協働による巡視、点検を行っていますが、今年は、管内4町の観光協会、高時川ラブリーバー会にご参加いただきました。



道路のテーマは「交通結節点A外道路の安全確保」



河川のテーマは「ザ・レイク21計画-流域における人と自然との共生-」

木之本建設管理部のかたつむり作戦では、観光振興、特にレンタサイクルの利用促進に資するため、レンタサイクルで巡視・点検すると共に、巡視中に目に付くゴミを拾い集め、道路美化、河川環境保全の取り組みも実施しました。

河川事業

淡海の川づくり検討委員会 (余呉川)

余呉町中河内に源流を發し、木之本町を経て高月町西野より琵琶湖に流れる余呉川は、延長24.9km流域面積65.2km²の一級河川です。余呉川の河川改修の歴史は古く、昭和31年の余呉川総合開発事業並びに昭和47年中小河川改良工事全体計画等による余呉湖ダムや西野放水路トンネルの整備により流域の安全が向上されてきました。

一方、平成9年の河川法改正に伴いこれまでの「治水」、「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が河川法の目的に新たに追加されました。また、法改正により長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることとなります。ここで河川整備計画の内容を審議する場が「淡海の川づくり検討委員会」です。これは地方公共団体の長、河川、環境、文化財の各分野の学識経験者、流域の住民意見を聞き、地域の実情に応じた河川整備を行うために設置するものです。

今回、滋賀県木之本建設管理部では、余呉川の河川整備計画を策定し、その内容を審議していただく「淡海の川づくり検討委員会」を設置します。皆様の河川整備に対するご意見を伺い、整備内容に反映するためのものです。委員会を設置時期は、平成15年2月から3月を予定（場所：未定）しており、一般の傍聴も可能です。皆様のご参加をお待ちしています。余呉川に対する思い、意見をどしどしお寄せ下さい。



余呉川（木之本町黒田付近）

編集後記

本年もなにとぞよろしくお申し込み申し上げます m(--)m

新たな年2003年を迎えました。本年は未年です。羊は古くから、家畜として、人を助け、人と共に生活をしてきました。この「IKAGO通信」も、皆さんのお役に立つ情報を、皆さんと共につくり、そして発信できるよう、2003年もますます充実したものにしていきたいと考えています。皆さんからのたくさんのご意見、ご要望、ご質問を編集委員一同お待ちしております。（*^_^*）

発行 木之本建設管理部パブリシティ委員会
事務局 計画調整課 TEL 0749-82-3881